

団 体 名	要約筆記サークル「てーくとーく」
事 業 名	手話のわからない聴覚障害者へ筆記通訳を行う人達の学習の場作り
補 助 金 額	88,900円
現 場 確 認 日	平成23年10月28日(金)
出 席 委 員	高橋委員



#### 事業の内容

手話のわからない中途失聴者や難聴者、高齢により聞こえにくくなった方等に情報を文字で伝える筆記通訳を行うための学習をする。

また、中途失聴・難聴者の方々は会話がスムーズにいかず、家にこもりがちになる方が多い。要約筆記を利用することにより情報が得られ、再び社会に参加しやすくなり、学習会にも参加をしていただくことで、意見を聞くと共に交流の場を提供する。



#### 現場確認の内容

この日は補助金で購入した OHC などを使用して練習されているところを見学させていただきました。

内容を要約しつつも情報は漏らさず伝えなければいけないため、役割を分担しながら止まることなく速記して文字を映し出していきます。また、使用する用具や服装についても制約があるとのことでした。

このたび二宮町でも要約筆記者派遣制度が発足したことから、今後、二宮町の社会福祉に多くの活躍が期待されます。

#### 出席委員のコメント

- ・講演会等で聴覚障害のある方に、話の内容を文字で伝える文書をロールフィルムに引用の際、メイン、サブ、引き手の3人が交代で楷書を用いて文字を揃えるよう額に汗して書く作業は、略号・略記があるとは言え、スピードが要求されて大変な労力があることを直感させられた。
- ・日本語は普通の速度の話聞いて書くとすると、話すスピードが数倍早く全部は文字に出来ないの、話の内容を要約する筆記は、耳と手が同時に動き読解力と字数が課題であると感じた。
- ・聴覚者の感性に呼応出来る表現力、専門用語等について、日頃の知識が必然的に要求されるのではないかと思います。
- ・皆さんが訓練によって習熟度をあげていただき、且つ会員同士の連携が大いに期待されます。
- ・二宮には手帳交付者のみ約80名程度の方がおられるとのこと。聴覚障害のある皆さんが安心して日常生活が暮らせます様、また、会員も増やしていただき今後の確かな活動が期待されます。

団 体 名	元気の出る歌の集い
事 業 名	歌と体操による元気な町づくり事業
補 助 金 額	77,800円
現 場 確 認 日	平成23年11月3日(木)
出 席 委 員	荻野委員、手塚委員、西尾委員



#### 事業の内容

地域に密着した、町民に広く愛されるオリジナルな愛唱歌とそれに合わせた体操の振りを創作する。

この曲を普及させ仲間と共に歌いながら体操をすることで、身体の血流を促進して心身共にリフレッシュし、脳の活性化と認知症予防をはかるとともに、町民のコミュニケーションを促進して元気な町づくりに貢献する。



#### 現場確認の内容

この日は、会の定例会を見学させていただきました。

50名以上が参加され、口腔ケアを兼ねた発声練習、輪唱や歌いながらの体操。また、作曲家・鍋島佳緒里先生に作っていただいた「二宮、永遠に」の練習が行われました。

参加者の平均年齢は約70歳。委員や事務局も含め、皆さん元気に笑いながら参加されていました。

超高齢化社会の現在、今後の二宮町の介護予防に活躍が期待されます。

#### 出席委員のコメント

- ・歌詞を配って伴奏に合わせてただ歌うのではなく、講師の方の軽快なトークをはさみながら、笑いの溢れる和やかな雰囲気で行われていた。歌にも、さまざまなアレンジや踊りを加えたりして、参加者（会員）が飽きない工夫がされており、とても楽しそうだった。
- ・皆さん、月一度の活動を心待ちにしているようだった。大切なコミュニティの一つになっていると感じた。
- ・今後はさまざまなアイデアを出し合い、実行し、二宮町の愛唱歌を広げていくための活動に力を入れて欲しい。
- ・月1回400円という参加しやすい環境である事からか参加者が多いと感じた。しかし、この先会員という形をとらない場合、人数の確保（収入源において）は大丈夫かなという事が気になった。
- ・高齢化が進む今、ぜひ多くの年配者に参加呼びかけをしていただきたいと思います。

団 体 名	湘南二宮竹の会
事 業 名	里山再生事業（竹林の再生）
補 助 金 額	91,200円
現場確認日	平成23年11月10日（木）
出席委員	山口委員、石井委員



#### 事業の内容

現在、二宮町の里山にある竹林は放置され危機的な状況にある。この里山の荒廃化を解決するため、里山竹林再生をテーマに放置竹林の整備や竹を利用したものづくりをする。

また、竹チップパーをレンタルして町民に有効性をアピールし、森林体験や農業体験等のイベントにも参加協力するなど、一色の塚越地区と鉄砲田地区にて竹やぶから竹林を目指し、よりよい里山づくりのために活動する。



#### 現場確認の内容

この日は、補助金を用いてレンタルした竹チップパーにより、伐採した竹をチップ化する作業を見学させていただきました。

直径10センチ、長さ10メートル以上はあろうかという竹も瞬く間に碎かれていきます。

1時間半ほどで、およそ100本以上もの竹がチップ化されました。このチップは遊歩道に撒いたり、ゆくゆくは畜産農業に利用することも考えられるとのことで、今後の二宮町の環境保全に活躍が期待されます。

#### 出席委員のコメント

- ・当日作業の打合わせから見せてもらったが、参加メンバーの作業服装のキチンとしていること、予定時間通り行動していること等、テキパキ活動していることに感心した。
- ・この竹チップパーの導入が実現すれば「竹の会」の荒竹林の整備作業が画期的に進展し、その成果は著しく上がるのでは・・・との期待が持てた。
- ・竹チップパーを継続リースすると予算過剰か。まして購入するとなれば費用捻出困難か。しかし竹林整備依頼者から請負費用をもらうことで対処できないものか。いずれにしても「竹の会」の活動は町にとっても極めて有用な活動と思料する。

団 体 名	民設学童保育を支える会
事 業 名	民設学童保育所の支援事業
補 助 金 額	63,100円
現 場 確 認 日	平成23年11月11日（金）
出 席 委 員	高橋委員、西尾委員



#### 事業の内容

共働き世帯を支えるための学童保育所。民設学童保育所は公設では賄いきれない保護者ニーズを受けて、子どもたちの生活の場を提供する施設である。

民設学童保育として自立し継続していくために、神奈川県内の講座に受講者を派遣するなど、現場を担っていく人材を育てるとともに、アピールイベントを開催し、一般の人や保護者に民設学童保育に対する理解を深めてもらう。



#### 現場確認の内容

この日は民設学童保育所「トトロの巣」にて会員の活動報告と意見交換会が開催され、委員も参加させていただきました。

新規の民設学童保育所がなかなか手を挙げてこないという現状や他施設の状況、今後の運営方針など、活発に意見交換がされました。

当団体への補助金交付も3度目の最終年度となりましたが、二宮町の子育て支援に、今後もよりいっそうの活躍が期待されます。

#### 出席委員のコメント

- ・個人事業として営む民設学童保育所は、利用者から感謝され、喜ばれている。特に親遠く、世話して貰えない人にとっては、民設の存在は有難い。
- ・支える会として養成講座受講者を輩出しており、「保育の場」確保は、スタッフや町民にとって望まれるところですので、町広報活動等を通して町民に広く呼びかけるのも必要だと思います。
- ・支える会の活動を広げるには、自分たちだけでは無理があると思いますので、情報発信でボランティア呼び掛けも手段だと思う。
- ・活動の方向性を個人的な場から組織の場へ発展させるには、ルールづくりの必要性を共有・突破口にしていただき新規開設へ模索していただきたいと思います。
- ・意見交換が活発で、今後の発展に十分に活かしていけたら皆で会を作り上げていく上でより良い組織作りが出来るのではないかと思います。民設の良さのアピールを上手に広め施設を増して行く事を頑張ってくださいと思います。